

深刻な雇用問題を解決するために、ワークシェアリング（労働の分かち合い）が話題になっていきます。40年以上前、アメリカ留学中に子どもを持つ女性の働き方を見聞き、感心しました。子育て中の女性同士が週3日ずつ仕事を分担して報酬は労働時間で換算し、保険などの社会保障は同等のようでした。帰国当時、女性の能力を長期的な展望でとらえた無理のない働き方として周囲に話したのですが、だれもとり合ってはくれませんでした。目先の利益や効率優先の社会構造にはなじまないということなのでしょう。それが今では雇用機会の拡大のために国をあげて推し進めようとしています。

寿命が延びました。女性の一生で子育ては一時のもの。その間、少しずつでも仕事が続けられれば

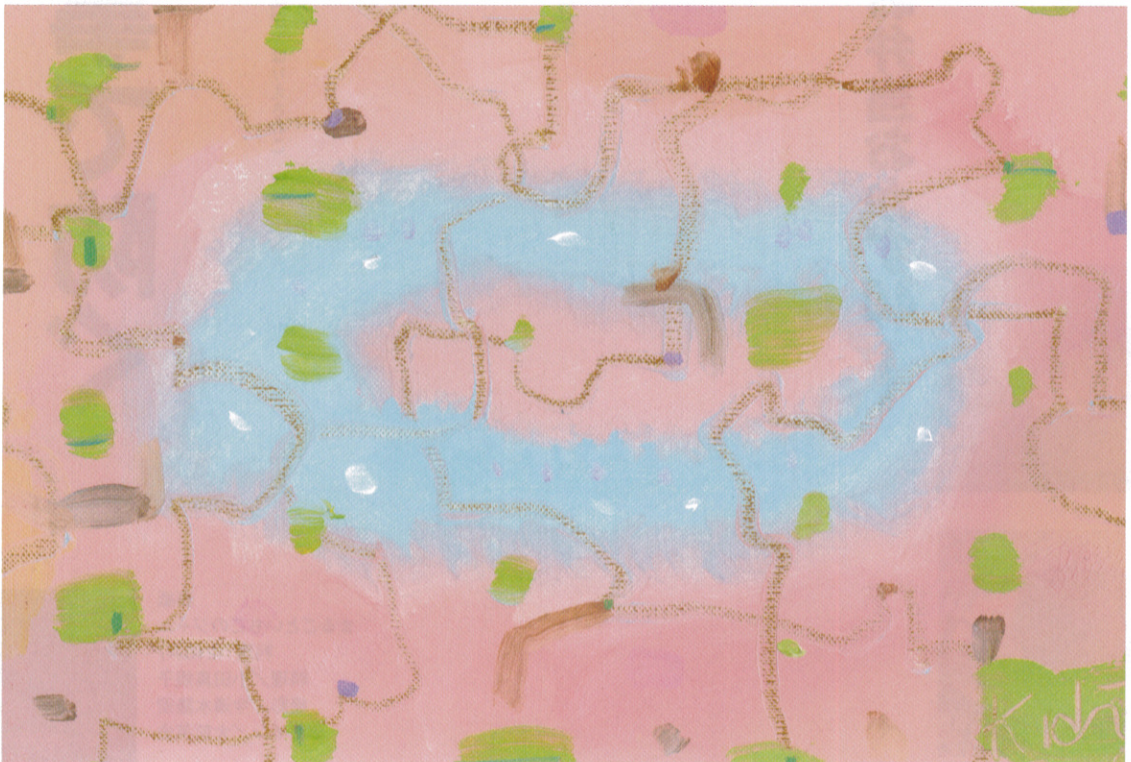
遅れをとらずに復帰できます。この制度がよりよい方向に機能すれば、深夜残業で体をこわすといった過酷な労働を強いられることもなくなり家庭を大事にする時間も生まれます。結果的にはだれにとっても暮らしやすい社会が実現できるはずで、少子高齢社会を幸せなものにする有効な手立てです。

日々の暮らしに

香川芳子

女子栄養大学学長

子育ては一時のこと  
労働を分かち合い  
豊かな社会にしましょう



え/平野こうじ